

はと時計 9月号

松蔭中高図書館 2018年9月1日発行

library@shoin-jhs.ac.jp 担当：川村

知る

『水の日本地図 水が映す人と自然』

東京大学総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー) 総括寄付講座編 沖大幹監修 朝日新聞出版 2012年

「飲む水」「潤す水」「襲う水」の3つをテーマに、日本全国の水に関する統計データがまとまっています。水にまつわる環境問題や治水について調べるには必須です。

『図説 滝と人間の歴史 シリーズ人と自然と地球』

ブライアン・J・ハドソン著 鎌田浩毅監修 田口未和訳

原書房 2013年

「高いがけから流れ落ちる水」(『広辞苑』より)と一言で言っても、世界にはいろいろな形の滝があると驚かされます。ナイアガラ・フォールズのように、滝が作り出す風景が観光資源となる例も世界中にたくさんあるそうです。滝の奥深さを知ることができる一冊です。

『水の名前 Mizu no Namae』

内山りゅう著 平凡社 2007年

水が豊富な日本には水についての言葉がとてたくさんあります。川の水が飛び散るさまを表す「水花火」^{みずまり}、「水鞠」。桜の花びらが川面に落ちて流れる「花筏」^{はないかだ}などなど。そんな水につけられた名前が、水中写真家の内山りゅうさんによる美しい写真と文章で紹介されています。眺めていると、涼を感じられますよ。

『うみのいえ』

大塚幸彦著 岩波書店 2008年

長ぐつの中で暮らしているカニ、タイヤでねむるウツボ、ミシンに産みつけられたイカの卵。海底に沈む人工物と、生きものたちの暮らしが、 mismatch なようで絶妙にマッチしている。そんな不思議な世界のぞいてみませんか？



『二つの風景 水』林望著

野呂希一写真 青菁社 2006年

海に囲まれ、世界平均の倍以上の雨が降り、約3万本もの川が流れている日本。私たちのまわりにある水の情景は、古くから様々な言葉で表されてきました。源流、溪流、早瀬^{しんせん}、深淵、海原、波濤、潮騒…様々に表情を変える水の姿を、言葉とともに味わうことができる写真集です。

見る

あ そ ぶ

『とんぼの本 日本ダイビング紀行』

望月昭伸 友松こずえ著 新潮社 1990年

スキューバダイビングは、全身で水を感じることができるレジャーです。ふわふわと漂いながら、色鮮やかな魚やサンゴを眺めると日常とは違った感覚が味わえます。全国のダイビングスポットが紹介されていて、楽しみながら読むことができます。

『Outdoor books6 カヌー&カヤック入門 川・海・静水別、基本&実践テクニック集』辰野勇著 山と溪谷社 2005年

カヌーやカヤックの扱い方が網羅されています。昼はカヌーを漕ぎ、夜は川辺でキャンプ。上流からはじまって、中流、下流、そして河口から海へ。カヌーに乗って、移りゆく水の姿を肌で感じたいくなります。

『すばらしきインドア大自然 水草水槽のせかい』タナカカツキ著 リトルモア 2013年

砂利を敷いて、石や流木を配置し、水草を植える。水槽の中に大自然が広がります。夏の暑い日に水の中で揺れる水草を眺めるだけで涼しい気分になること間違いなし。近年の研究によると、水草や魚を眺めると癒し効果もあるのだとか。

水。それは私たち人間を含む全ての生き物が生命を維持するために必要不可欠なものです。また、海や川、湖などの水辺は、人と自然が共生しながら美しい風景を作り出し、豊かな文化を育んできました。みなさんも夏休み中に、海水浴や川遊びなど水に親しむ機会が多かったのではないのでしょうか？水に触れることが多いこの季節、私たちを取り巻く水を見つめてみませんか？

『池上彰のニュースに登場する世界の環境問題 2 水』

サラ・レバーテ著 稲葉茂勝訳 池上彰監修 さ・え・ら書房 2010年

水不足、水質汚染、ダムなどによる環境破壊、異常気象など世界中で起こっている水に関する問題が分かりやすく解説されています。誰にとっても重要な水の問題。私たちに何ができるか考えてみましょう。

『ブルーボックス 見えない巨大水脈 地下水の科学 使えばすぐには戻らない「意外な希少資源」』日本地下水学会 井田徹治著 講談社 2009年

地球上の水はほとんどが海水で、私たちが生活に利用できる水は約0.66%しかありません。そしてその水は、川や湖にあるものよりも、地下水の方がはるかに多いのだそうです。そんな地下水が循環する仕組みや、どのように活用されているかが分かります。

『ブルーボックス 森が消えれば海も死ぬ 陸と海を結ぶ生態学 第2版』

松永勝彦著 講談社 2010年

漁師たちが山の木を育てる「漁民の森」運動が全国で進められています。木を育てて森が豊かになれば海も豊かになり、魚介類が増えるからだそうです。それは一体なぜか？その答えがこの本にあります。

考える